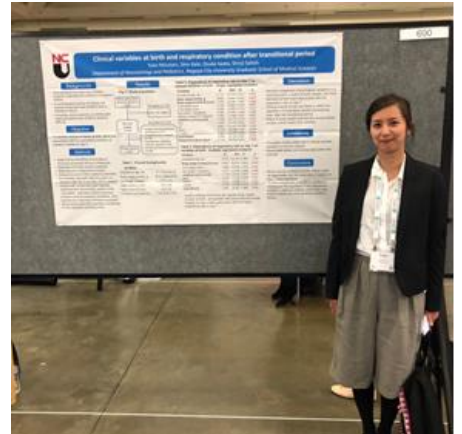


平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

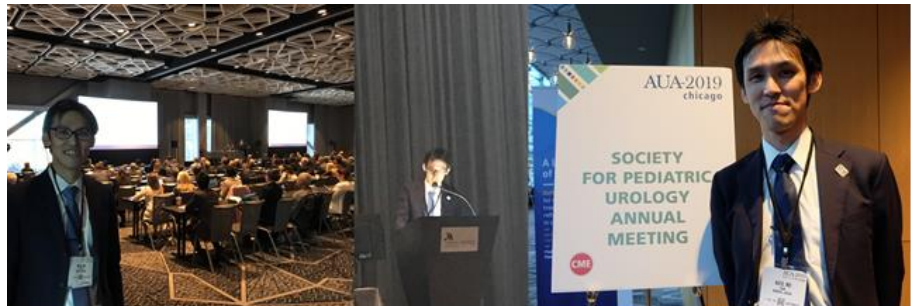
◆第 1 次 No.1

【所 属】	医学研究科 博士課程 3年
【氏 名】	水谷 優子
【学会の名称】	Pediatric Academic Societies Meeting2019 (小児科学会議2019)
【研究発表報告】	<p>アメリカ・ボルチモアで開催されたPediatric Academic Societies Meeting2019に参加し発表してきました。初めての国際学会であり、多少の緊張もありましたが、世界各国から多くの研究者、臨床医が参加する学会はとても活気と熱気にあふれており、そのような場で研究成果を発表することは貴重な体験となりました。研究に対して貴重な意見をいただけたことも大事ですが、今回の学会参加で一番の成果は、世界各国の最新の研究成果や研究者たちの研究に対する姿勢に触れ、自分のモチベーションが大きく上がったことだと思います。今後は感銘を受ける側ではなく与える側になれるように日々熱心に研究に励んでいきたいと思っています。</p>



◆第 1 次 No.2

【所 属】	医学研究科 博士課程 4年
【氏 名】	加藤 大貴
【学会の名称】	114 th American Urological Association Annual Meeting(アメリカ泌尿器科学会) 67 th The Societies for Pediatric Urology (アメリカ小児泌尿器科学会) 7 th International symposium on complex pediatric robotic urological surgery (小児ロボット研究会)
【研究発表報告】	<p>2019年5月3日～5日に アメリカ合衆国シカゴにて催された”The Societies for Pediatric Urology”の学会にて口頭発表をいたしました。本学会は世界各国からその道のスペシャリストが参加し発表を行う場であり、ビックデータ・最新知見が次々と発表されました。その中で私たちの臨床データを発表する機会をいただけたことは非常に光栄でした。レセプションでは、アメリカのトップの先生方と直接対話することができ、『いい発表だった。君たちが次の世代の担い手だ』と励ましの言葉をいただいた時には感激いたしました。このような機会に支援をいただきました名古屋市立大学国際学会発表支援事業に深く感謝をいたします。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第 1 次 No.3

【所 属】	医学研究科 博士課程 2 年
【氏 名】	田中 勇太郎
【学会の名称】	American Urological Association Annual Meeting 2019 (米国泌尿器科学会年次総会2019)
【研究発表報告】	<p>2019年5月3-6日までシカゴでAUA 2019(アメリカ泌尿器科学会総会)が開催されました。今回私は、尿路結石の形成メカニズムの解明に向けた新たな分析方法の開発について口頭発表させて頂き、座長を含め多くの先生方から高い評価を頂きました。世界最大の学会での発表、そして世界最先端の研究者との議論は、私にとって大変刺激的でした。このような貴重な機会を与えていただいたすべての皆様に心より御礼申し上げます。</p>

A photograph of a man in a dark jacket and glasses standing in a hallway. Behind him are large blue letters spelling 'AUA 2019'.

◆第 1 次 No.4

【所 属】	医学研究科 博士課程 4 年
【氏 名】	野崎 哲史
【学会の名称】	American Urological Association Annual Meeting 2019 (米国泌尿器科学会年次総会2019)
【研究発表報告】	<p>2019年5月3-6日までシカゴで開催されたAUA 2019(アメリカ泌尿器科学会総会)で発表して参りました。内容は、男性不妊症に関する基礎研究2演題です。特に、精巣から体細胞のみを分離する方法に関する発表では、多くの質問・意見を頂きました。2年ぶりのAUA参加となり、あらためて英語力のなさを痛感しましたが、世界レベルの知見を得ることができました。このような貴重な機会を与えていただいたすべての皆様に心より御礼申し上げます。</p>

A photograph of a man in a suit standing at a podium on a stage. There are other people seated at a table in front of him.

平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第 1 次 No.5

【所 属】	医学研究科 博士課程 4 年
【氏 名】	中 嵩 晃一朗
【学会の名称】	PARTICLE THERAPY CO-OPERATIVE GROUP (PTCOG) 58th ANNUAL CONFERENCE (世界粒子線治療会議)
【研究発表報告】	<p>今回、大学院からの国際学会発表支援をいただくことにより、イギリスマンチェスターにて行われたPTCOGという粒子線治療に関する国際学会で” S-1 and concurrent image-guided proton therapy for unresectable locally advanced pancreatic cancer – interim report of phase II study” のテーマで発表をさせていただく機会を得ることが出来ました。一般的に難治性として知られている膵がんに対する新しい治療アプローチであり、意義のある発表内容であったと感じております。この場を借りて関連の皆様方に対して感謝申し上げます。</p>



◆第 1 次 No.6

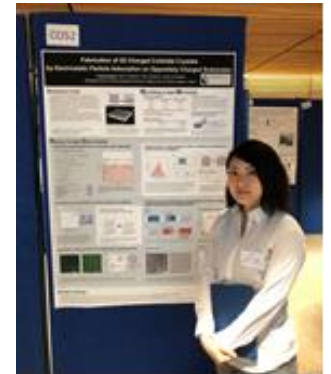
【所 属】	医学研究科 博士課程 3 年
【氏 名】	吉原 紘行
【学会の名称】	35th ANNUAL MEETING European Society of Human Reproduction and Embryology (第35回欧州生殖医学会)
【研究発表報告】	<p>European Society of Human Reproduction and Embryology (ESHRE) は世界で最も大きい生殖医療に関する学会の1つであり、今回で35回目の開催(2019年6月23-26日オーストリア; ウィーン) となります。この度、このような権威ある学会において発表の機会を頂くことができました。</p> <p>ESHREは世界各国から生殖医療に関する研究者が集まっており、発表演題数は口頭発表数が約300題、ポスター発表数が約800題あり、参加者も約1万人と日本の学会と比べても大規模であり、発表を聴くことで大きな刺激を受けました。講演内容は総説から最新のトピックまで興味深いものが多く、勉強になる講演ばかりでした。今回の私の発表は、PLK4 (Polo様キナーゼ4) と胚の染色体異数性に起因する不育症との関連についての内容でした。海外でのプレゼンテーションは3回目でしたが、とても貴重な経験ができたと思います。本学不育症研究センターは文科省共同研究拠点に認定されており、ESHREでの発表が共同研究の推進につながればと思います。</p> <p>このような発表の機会を頂き、日頃の診療・研究においてもいい刺激となりました。今回の経験を糧として、今後の研究に活かしていきたいと思います。今回の海外学会参加に関してご支援いただきましてありがとうございました。今後不育症研究に邁進し成果を挙げることで報いたいと考えております。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

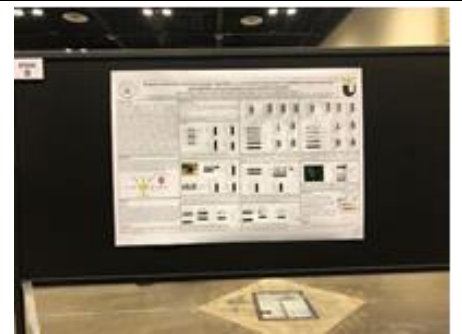
◆第 1 次 No.7

【所 属】	薬学研究科 博士後期課程 1 年
【氏 名】	青山 柚里奈
【学会の名称】	The 5th International Soft Matter Conference (第5回ソフトマター国際会議)
【研究発表報告】	<p>2019年6月3日から7日にかけて、イギリス・エディンバラで行われた“The 5th International Soft Matter Conference”に参加し、ポスター発表を行いました。様々な分野の研究発表を聴講し、また自身の研究発表に関する議論や意見交換を通して、研究者としての視野を広げることができ、非常に意義のある学会参加でした。本学会で得た知見や助言を今後の研究活動に活かして、研究成果につなげていきたいと思えます。このような機会を与えて支援をいただきました、名古屋市立大学国際学会発表支援事業に深く感謝致します。</p>



◆第 1 次 No.8

【所 属】	システム自然科学研究科 博士後期課程 2 年
【氏 名】	山田 麻未
【学会の名称】	Experimental Biology 2019 (実験生物学2019)
【研究発表報告】	<p>2019年4月9日にポスターセッションにて「p62/SQSTM1のリン酸化によるNrf2の活性化は筋収縮刺激による遅筋の抗酸化酵素の調節に必須である」というテーマで発表致しました。世界の研究者と研究について議論を重ねることができ、日本国内では経験できない貴重な機会を得られました。このような機会を与えて下さいました名古屋市立大学国際学会発表支援事業に深く感謝致します。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

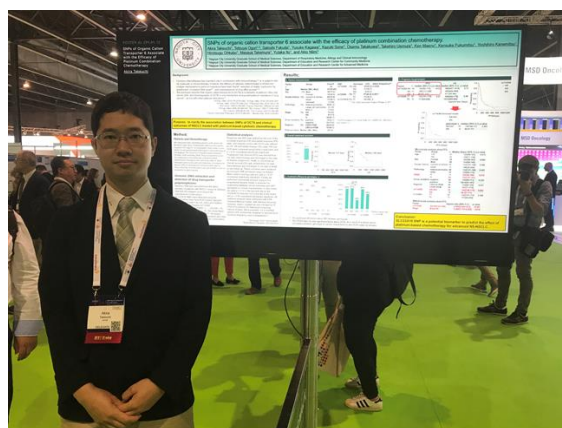
◆第2次 No.1

【所属】	医学研究科 博士課程 3 年
【氏名】	大見 関
【学会の名称】	The 7 th Biennial Congress of the Asian Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (第 7 回アジア太平洋肝胆膵学会)
【研究発表報告】	<p>今回、大学院生を対象とした国際学会発表支援をご援助いただき、ソウルで開催されたアジア太平洋肝胆膵学会に参加いたしました。当科における転移性膵腫瘍の臨床的特徴を”A Clinical Study of Surgical Resection for Metastatic Tumors of Pancreas”というタイトルで発表してまいりました。</p> <p>各国から集った多くの参加者が活発な議論をするなかで、肝胆膵領域の幅広い最新の知見を得ることができ、これからも広く世界に目を向けて研究・臨床に力を入れていきたいと感じました。貴重な機会を頂戴し、とても感謝いたしております。ありがとうございました。</p>



◆第2次 No.2

【所属】	医学研究科 博士課程 4 年
【氏名】	竹内 章
【学会の名称】	2019 World Conference on Lung Cancer (世界肺癌学会学術集会2019)
【研究発表報告】	<p>2019/9/7-2019/9/10にスペインのBarcelonaで開催された2019 World Conference on Lung Cancerに参加し、『SNPs of Organic Cation Transporter 6 Associate with the Efficacy of Platinum Combination Chemotherapy』というテーマで発表の機会をいただきました。他の研究者たちとの意見交換を通して本研究に関連する新たな知見を得るとともに、ほかの研究者たちの肺癌領域における研究内容の一端を知ることによって、今後の研究活動を行う上で非常に有意義な学会であったと考えます。このような機会を授けていただいた教室の皆様、および支援をいただいた名古屋市立大学国際学会発表支援事業に感謝を申し上げます。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.3

【所属】	医学研究科 博士課程 2 年
【氏名】	水野 智貴
【学会の名称】	America Society of Radiation Oncology (アメリカ放射線腫瘍学会)
【研究発表報告】	<p>今回、日本以外での学会で発表を行い、また最新の情報に触れることによってより高度な医学知識を持つ意欲を得ることができました。さらに、他大学、企業の方々との会話を通じて様々な意見、未来の考え方などに触れることができました。</p> <p>私の海外における学会発表は初めてであり、とても刺激の多い期間でした。今後また研究を進めた暁には再度こういった場で発表できるととてもうれしく思います。</p>



◆第2次 No.4

【所属】	医学研究科 博士課程 3 年
【氏名】	野村 研人
【学会の名称】	ASTRO's (American Society for Radiation Oncology) 61 st Annual Meeting (米国放射線治療学会年次総会)
【研究発表報告】	<p>今回、シカゴで開催された第61回米国放射線治療学会に参加させていただきました。</p> <p>「Biological Effects of Spot Scanning and Passive Scattering Proton Beams at the Distal End of the Spread-out Bragg Peak (SOBP) in Single Cells and Multicell Spheroids」というタイトルでポスター発表を行いました。学会で得た経験を今後の臨床、研究に役立てていきたいと思えます。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.5

【所属】	薬学研究科 博士前期課程 2 年
【氏名】	落部 達也
【学会の名称】	The XV International Congress of Toxicology (第15回 国際毒性学会)
【研究発表報告】	<p>2019/7/15-2019/7/18にホノルルで開催されたICTXV (The XV International Congress of Toxicology) に参加し、『In silico models for the predicting of the repeated dose toxicity based on HESS database』というテーマで発表を行いました。私にとって初めての国際学会での発表で、英語でのコミュニケーションは大変でしたが、ディスカッションや発表の聴講を通じて、世界中の多様な最先端の毒性学の研究内容や取り組みを学ぶことができ、非常に有意義であったと感じています。今回得られた貴重な経験を今後の成長の糧にし、研究や英語力の向上に励んでいきたいと思えます。</p>



◆第2次 No.6

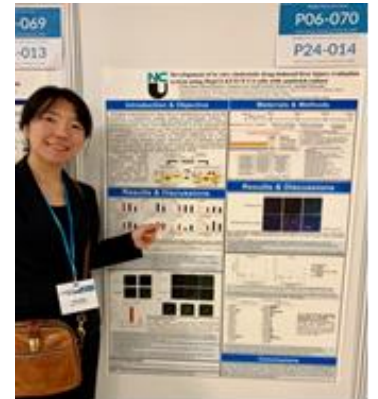
【所属】	薬学研究科 博士前期課程 2 年
【氏名】	齋藤 泰輝
【学会の名称】	25 th international symposium on glycoconjugates (第25回国際糖質学術大会)
【研究発表報告】	<p>ミラノで開催された25th international symposium on glycoconjugatesに参加し、口頭発表を行いました。本学会は複合糖質に関する世界最大の学術大会です。本学会への参加により分野最先端の研究に触れるとともに、その第一線を担う研究者と交流できたことは、研究活動への励みとなりました。今後ともより一層研究生活に勤しみ、本分野の発展に貢献する所存です。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.7

【所属】	薬学研究科 博士課程 4 年
【氏名】	堺 陽子
【学会の名称】	55th Congress of the European Societies of Toxicology (Eurotox 2019) (第55回欧州毒性学会)
【研究発表報告】	<p>私は、フィンランドのヘルシンキで開催された第55回欧州毒性学会に9月8日から11日まで参加し、「Development of <i>in vitro</i> cholestatic drug-induced liver injury evaluation system using HepG2-hNTCP-C4 cells with sandwich culture.」と題したポスターで発表を行いました。5名の研究者が聞きに来られ、研究内容や実験結果に対して活発な質問や助言を頂きました。これは、自身の研究に対するモチベーション維持や今後の課題を明らかにする貴重な経験になりました。また、英語の苦手意識からコミュニケーションに積極的になれず、興味のある研究内容を深められない時は、悔しさを感じました。今回得られた経験を、今後の勉学や研究活動に活かして邁進してまいります。</p>



◆第2次 No.8

【所属】	薬学研究科 博士課程 4 年
【氏名】	青木 啓将
【学会の名称】	55th Congress of the European Societies of Toxicology (Eurotox 2019) (第55回欧州毒性学会)
【研究発表報告】	<p>私は、フィンランドのヘルシンキで開催された第55回欧州毒性学会に参加し、「Differentiation of human iPS cell-derived endothelial progenitor cells into brain microvascular endothelial cells.」と題したポスターで発表を行いました。海外の研究者の方々と自身の研究内容に関して議論することができ、非常に貴重な経験を積むことができました。本学会を通して得ることができた毒性評価に関する最新の知見を今後の研究に生かそうと考えております。このような貴重な機会を与えていただいた名古屋市立大学国際学会支援に深く感謝いたします。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.9

【所属】	人間文化研究科 博士後期課程2年
【氏名】	櫻井 貴大
【学会の名称】	International Association of Early Childhood Education Conference (国際幼児教育学会)
【研究発表報告】	<p>2019年8月9日(金)、8月10日(土)、アメリカ・ハワイ州のハワイコミュニティカレッジヒロ校で行われた国際幼児教育学会で“How does a assistant preschool teacher recognize the role of an assistant preschool teacher”というテーマで口頭発表を行いました。自身の発表もみなさん頷きながら聞いてくださったことで、自信となりました。日本とアメリカとの大きな相違点、小さな相違点から国を問わず、大切にすべきことは何か、そして、海外から見て自身の研究の立ち位置はどこにあるのかを改めて考えることのできる良い機会となりました。今後も国際学会での発表による発信と海外の最先端の研究を学ぶためにも積極的に参加していきたいと思える貴重な経験となりました。そのような機会を与えてくださった名古屋市立大学国際学会支援事業に深く感謝致します。</p>



◆第2次 No.10

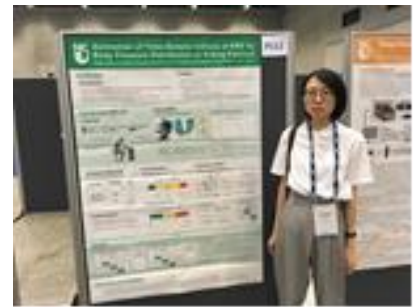
【所属】	人間文化研究科 博士前期課程 1 年
【氏名】	長野 未来
【学会の名称】	International Association of Early Childhood Education Conference (国際幼児教育学会)
【研究発表報告】	<p>2019年8月9日～10日にアメリカハワイ州ヒロで開催された、International Association of Early Childhood Education Conference (国際幼児教育学会)に参加しました。自分にとって学会での発表は初めてであり、今回の経験を通して海外の幼児教育研究の知見を把握し広い視野を持つことが出来ました。また、英語でのプレゼンテーションや伝わる発表の組み立て方などを知ることができたことなども今後生きる学びとなりました。私は幼児教育の中でも子どもの「遊び込み」について研究しています。この「遊び込み」という概念は日本特有のものであり、英語で海外の研究者と概念を共有することに苦労しました。しかし、日本以外の幼児教育の研究者と意見交換をすることで自分の研究を見つめ直し、発展可能性を見出すことが出来ました。今回の経験をいかして、今後さらに国際的な視点も取り入れた研究をしていきたいです。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.11

【所属】	芸術工学研究科 博士前期課程 2 年
【氏名】	酒井 梨真子
【学会の名称】	41 st IEEE EMBCONFERENCE 2019 (第41回国際生体医工学学会)
【研究発表報告】	<p>ドイツのベルリンで開催された国際学会IEEE EMBC 2019に参加し、「Estimation of Time-Domain Indices of HRV by Body Pressure Distribution at Sitting Position (座位姿勢の体圧分布によるHRVの時間領域指標の推定)」についてポスター発表をしてきました。IEEE EMBCは生体医工学分野における世界最大の学会です。様々な国の方と意見交換をすることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。</p>



◆第2次 No.12

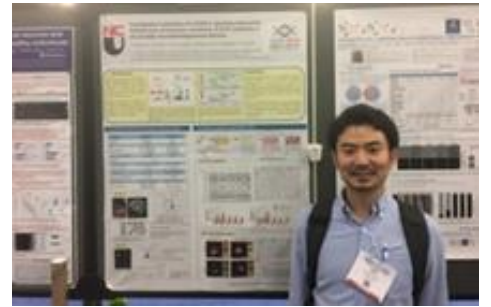
【所属】	芸術工学研究科 博士前期課程 2 年
【氏名】	林 映見
【学会の名称】	41 st IEEE EMBCONFERENCE 2019 (第41回国際生体医工学学会)
【研究発表報告】	<p>2019年7月23日から27日にかけてドイツのベルリンで行われた、第41回国際生体医工学学会に参加し、ポスターセッションで発表を行いました。自身の発表では、複数の方に質疑やコメントをいただき、自身の研究の不足している部分や評価されている部分を知ることができました。また、他の方々の発表を聞くことで自身の研究との類似点や相違点を知ることができ、自身の研究の立ち位置を理解することができました。</p> <p>また研究に関して新たな知識を得ることができました。学会で得られた意見や知識をさらに深め、自身の研究に活かしていきたいです。今後研究を進めていくにあたり、大変勉強になり有意義な時間を過ごすことができました。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.1

【所 属】	医学研究科 博士課程 3 年
【氏 名】	中村 勇治
【学会の名称】	The American Society of Human Genetics 2019 Annual Meeting (米国人類遺伝学会)
【研究発表報告】	<p>The American Society of Human Genetics 2019 Annual Meeting (米国人類遺伝学会) に参加しました。世界中から6000人以上の研究者が集まる遺伝研究において最大規模の学会です。私は大学院で行った研究成果を報告し、海外の研究者と議論を交わすことができました。遺伝研究は日進月歩であり、網羅的遺伝子解析はもはやボトムラインの手法となり、モデル動物を用いた機能解析研究や遺伝子治療への展開が次々と報告されていて、感銘を受けました。このような国際学会に参加するための支援を頂いた名古屋市立大学国際学会発表支援事業に、心から感謝を申し上げます。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.2

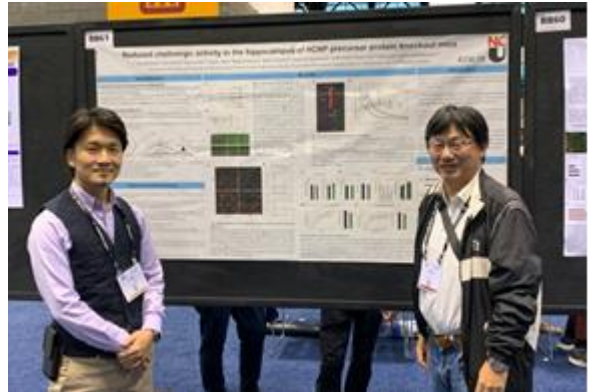
【所属】 医学研究科 博士課程 4 年

【氏名】 間所 佑太

【学会の名称】 Neuroscience 2019
(北米神経科学会2019)

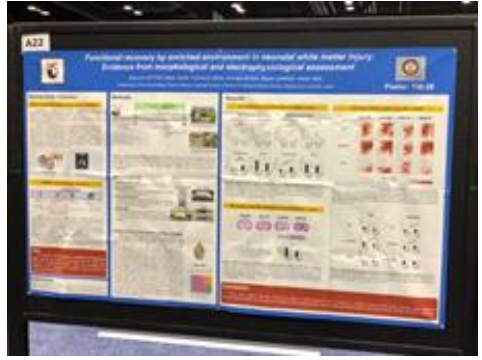
【研究発表報告】

我々の研究室では、1992年に小鹿名誉教授が発見した海馬由来コリン作動性神経刺激ペプチド (Hippocampal cholinergic neurostimulating peptide: HCNP) の研究を精力的に行っています。これまで様々な研究成果を国際誌および学会で発表してきました。今回は、HCNPの前駆体タンパクであるHCNP precursor protein (HCNP-pp)のノックアウトマウスを作成し、その評価を行ったため、その研究結果を北米神経科学会で発表してきました。初めての国際学会での発表であり、当然のことながら全て英語でプレゼンテーション、ディスカッションが行われるため、大変緊張しましたが、しっかりと準備をして臨んだこともあり、特にトラブルなく発表を終えることができました。痛感したことは、海外の研究者たちのディスカッションをすることへの積極性です。非常に単純なことから難しい内容まで、彼らは良い意味で何ら遠慮することなく質問をしてくれます。自分の研究室内での研究報告では誰も気に留めなかったような視点で意見を言ってもらえるので、自分の研究の弱点を知ることができたり、新たな考え方を学ぶことができました。深いディスカッションをするには、まだまだ語学力が足りないことを痛感しましたが、彼らと議論できるようになることが今後の英語学習への相当なモチベーションとなりました。国際学会では、自分と似たような分野の研究発表もたくさん行われるため、世界の中での自分の立ち位置を知ることができます。また、自分の研究にすぐに当てはめられそうな方法論を知ることができます。一人で論文を読んでいるよりもはるかに効率的に知識をブラッシュアップできることを実感しました。今回の経験を糧に、世界に向けて発信できるような研究を行えるよう、引き続き精進していきたいと思っております。




平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.3

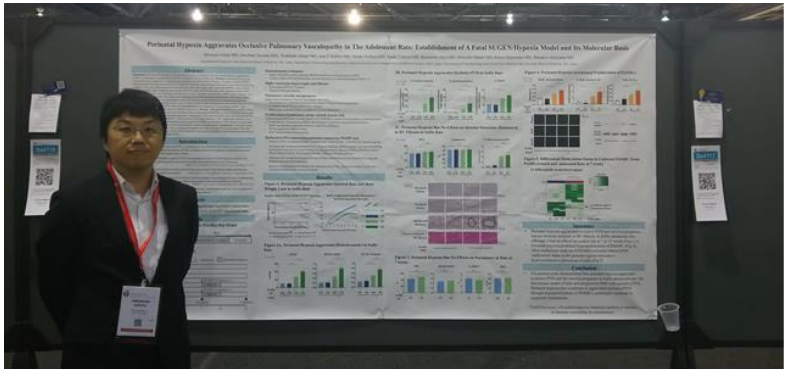
【所属】 医学研究科 修士課程 2 年	
【氏名】 服部 篤紀	
【学会の名称】 Neuroscience 2019 (北米神経科学会2019)	
【研究発表報告】 2019年10月19～23日にアメリカ・シカゴで開催された Neuroscience 2019に参加し、「Functional recovery by enriched environment in neonatal white matter injury: Evidence from morphological and electrophysiological assessments」というテーマで発表致しました。世界各国の神経科学者が集う学会に参加でき、今後の研究発展に繋がる貴重な議論ができました。また、現在行っている研究の位置付けを改めて知ることができました。このような機会を与えて下さいました名古屋市立大学国際学会支援事業に深く感謝致します。	

◆第3次 No.4

【所属】 医学研究科 博士課程 3 年	
【氏名】 利重 裕子	
【学会の名称】 8 TH Conference of the International Society of Interpersonal Psychotherapy (ISIPT) (第8回国際対人関係療法学会)	
【研究発表報告】 2019年11月6日から11月9日までハンガリーのブダペストで開催された第8回国際対人関係療法学会 (International Society of Interpersonal Psychotherapy) にて、「The Subjective Changes of Responders to Interpersonal Psychotherapy(IPT) for Depression in Japan: A qualitative study」という題目でポスター発表をさせていただきました。この発表を通して情報交換を行い、また世界各国の研究者や臨床家の発表を聞くことができたことで、今後研究を進めていく上での課題が明確となりました。このような貴重な機会を与您いただき、心より深く感謝いたします。	

平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.5

【所属】	医学研究科 博士課程 4 年
【氏名】	大下 裕法
【学会の名称】	American Heart Association Scientific Sessions 2019 (アメリカ心臓病学会学術集会)
【研究発表報告】	<p>自身の研究について新たな視点から様々な意見を頂き、今後の研究に非常に有益であった。また、同年代の研究者と交流することができ、大変刺激を受けた。</p> <p>自身の発表、学習の両方にとって大変有意義な機会であった。</p>
	

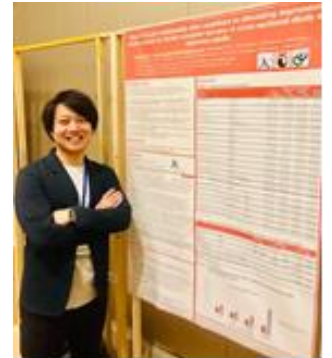
◆第3次 No.6

【所属】	医学研究科 博士課程 4 年
【氏名】	伴野 智幸
【学会の名称】	AHA (American Heart Association) 2019 (米国心臓病学会)
【研究発表報告】	<p>2019/11/16-19に米国フィラデルフィアで開催された American Heart Association (AHA) Scientific Sessions 2019 へ参加し、Echocardiography: Techniques and Technologyのセッションでポスター発表して参りました。AHA年次集会は循環器領域の世界最大規模の学術集会の一つであり、広大な学会会場では各施設からの研究報告とともに、随所で最新の臨床試験結果が発表されます。抄録採択率30%の中で我々の研究報告ができたこと、そして、最先端の知見に触れることができたことは非常に有意義な経験となりました。発表に関してご支援頂きました先生方、大学支援事業には改めて感謝申し上げます。</p>
	

平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

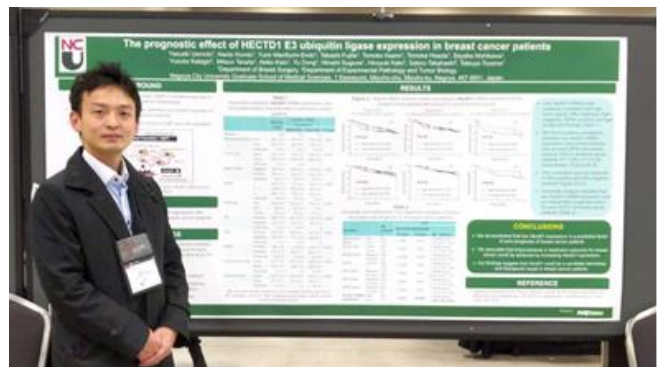
◆第3次 No.7

【所 属】	医学研究科 博士課程 3 年
【氏 名】	野口 泰司
【学会の名称】	51st APACPH Conference (第51回アジア・太平洋公衆衛生学会)
【研究発表報告】	<p>2019年11月20日～23日にタイのバンコクで開催された51th APACPH Conferenceにて成果報告を行いました。本学会のテーマは「SDGs in Reality」であり、2015年に国連にて採択された本課題の実現に向けて議論を行う様々なセッションが開かれました。私は「Role of social relationship with neighbors in alleviating depressive mood caused by family caregiver burden: A cross-sectional study of Japanese adults」という題目で、日本の家族介護の問題とそれを緩和する社会モデルについての報告をいたしました。特に日本の高齢化の諸問題についてはアジア諸国から高い関心が感じられ、高齢社会のトップランナーとして海外に発信をしていく意義の大きさを再認識いたしました。このような機会を与えてくださった名古屋市立大学国際学会発表支援事業および大学関係者の皆様に感謝申し上げます。</p>



◆第3次 No.8

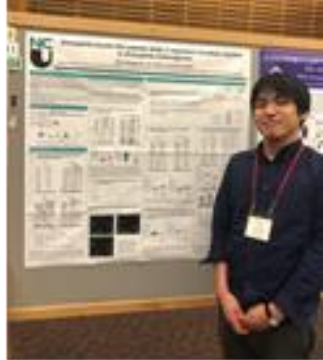
【所 属】	医学研究科 博士課程 3 年
【氏 名】	上本 康明
【学会の名称】	San Antonio Breast Cancer Symposium (サンアントニオ乳癌シンポジウム)
【研究発表報告】	<p>2019年12月10日～12月14日までアメリカ、テキサス州のサンアントニオで行われた世界最大の乳癌シンポジウムであるSan Antonio Breast Cancer Symposiumにて、ポスター発表をしてきました。発表を通じて、世界の研究者・臨床医と意見交換を出来たことで、自身の研究について見直すことが出来、今後の方向性を見つめ直すことが出来ました。また、最新の乳癌研究の結果を集中して学ぶことが出来たので、その知見を研究に活かし、患者さんへ還元していこうと考えております。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

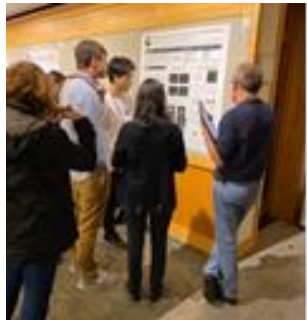
◆第3次 No.9

【所 属】	薬学研究科 博士後期課程 1 年
【氏 名】	山口 翔
【学会の名称】	Neurobiology of <i>Drosophila</i> (ショウジョウバエ神経生物学)
【研究発表報告】	<p>私は、アメリカのニューヨークで開催されたCold Spring Harbor meeting ; Neurobiology of <i>Drosophila</i>に参加し、ポスター発表を行いました。英語での発表はとても緊張しましたが、多くの方々と自分の研究についてディスカッションすることができ、研究の発展につながる質問やアドバイスを得ることができました。また、世界の最先端の研究について知ることができ、とても勉強になりました。本大会に参加して得られた経験をこれからの研究活動に活かしていきたいと思います。</p>



◆第3次 No.10

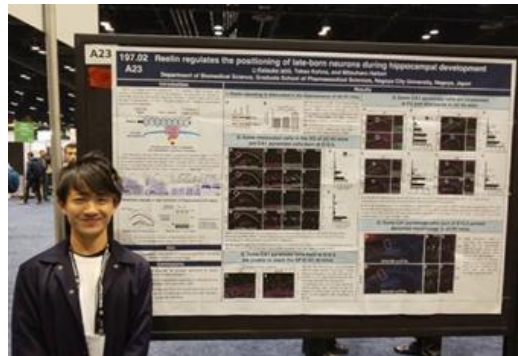
【所 属】	薬学研究科 博士前期課程 1 年
【氏 名】	加藤 善章
【学会の名称】	Cold Spring Harbor Laboratory Neurobiology of <i>Drosophila</i> 2019 (CSHL ショウジョウバエ神経生物学2019)
【研究発表報告】	<p>本学会はショウジョウバエを用いて神経科学の研究を行っている研究者が一堂に会す、2年に一度の学会です。学会にはショウジョウバエ研究者でなくとも誰もが知っているような著名な先生方が多数参加されており、そのような方々から重要な質問や研究の進展につながる貴重な意見を頂きました。今回頂いた質問やアドバイスを自分なりに解釈し、今後の自らの研究につなげていきたいです。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.11

【所 属】	薬学研究科 博士前期課程 2 年
【氏 名】	石井 圭介
【学会の名称】	Society for Neuroscience 2019 (第49回北米神経科学会議)
【研究発表報告】	<p>私は今回、Society for Neuroscience2019 (北米神経科学会議) という各国から3万人以上が集まる、世界最大規模の学会に5日間参加しました。私は、哺乳類の脳形成に関する最新の研究成果についてポスター発表し、多様な国籍や研究背景の科学者と英語で活発な議論を行ってきました。学会中は、非常に興味深い最先端の知見や技術に触れることもでき、貴重な経験をさせていただきました。さらに今後の目標として、英語のヒアリングとスピーキングを円滑に行うことの重要性を実感しました。最後に、名古屋市立大学国際学会支援にあたり関係した多くの方々に、この場をお借りして感謝いたします。</p>



◆第3次 No.12

【所 属】	薬学研究科 博士課程 3 年
【氏 名】	鈴木 瑠理子
【学会の名称】	American Society for Cell Biology (米国細胞生物学会)
【研究発表報告】	<p>私は今回、アメリカのワシントンD.C.で開催された細胞生物学会に参加し、ポスター発表を行いました。はじめての国際学会の参加ということではじめは緊張しましたが、自分の興味ある発表は積極的に聞きに行き、拙い英語ながらも意見の交換もすることができました。また、自身のポスター発表においては自分の意見を英語で伝えることが難しく、なかなか思うように伝えることができず悔しい思いもしましたが、たくさんの方にも気づかされました。この貴重な経験を今後の自分自身の研究生活に活かしていきたいと思えます。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

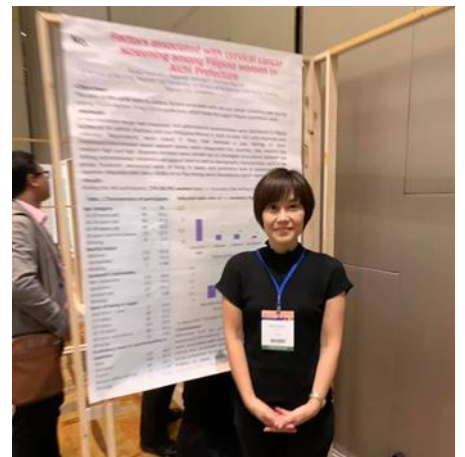
◆第3次 No.13

【所 属】	芸術工学研究科 博士前期課程 2 年
【氏 名】	大橋 さゆり
【学会の名称】	the 17th International Conference of Asia Digital Art and Design (ADADA2019) (第17回アジア・デジタルアート&デザイン学会)
【研究発表報告】	<p>2019年11月26日から28日にかけてマレーシアのスランゴルで行われた、ADADA2019に参加し、デモ発表を行いました。多くの方々に体験していただきフィードバックを得る事で、本制作の不足している点や改善点、評価されている点を知る事ができました。体験者に専攻分野が近い方が多く、情報交換をする事で新たな知見を得る事ができました。また、他の方々の発表を聞く事で、制作する上での意識する点や着目点の相違を知る事ができ、自身のこれからの制作の参考になりました。学会で得られた意見や知識をさらに深め、自身の研究、制作に生かしていきたいです。今後制作を進めていくにあたり、大変勉強になり有意義時間を過ごす事ができました。</p>



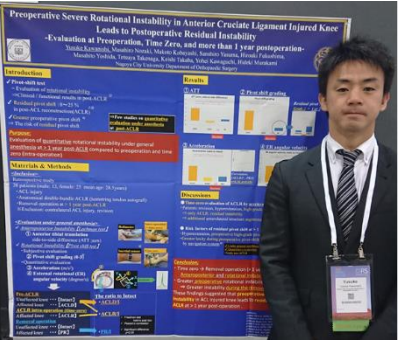
◆第3次 No.14

【所 属】	看護学研究科 博士後期課程 1 年
【氏 名】	吉野 亜沙子
【学会の名称】	The 51 st APACPH conference (第51回アジア太平洋公衆衛生学術連合国際会議)
【研究発表報告】	<p>国際学会に参加したことで、他国における保健・医療・看護の現状と課題を学ぶことができました。そこから、日本における問題点や課題も見つけることができ、今後の学術研究に活かしていきたいと思いました。また、背景の異なる多国籍の参加者とともに保健・医療・看護について共に考え意見交換をしたことで、多角的な視点を養うことができ、非常に有益な経験をする事ができました。今後も積極的に国際学会に参加し、知見を高め、幅広い視野で事象を捉えられるようになりたいと思いました。</p>



平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第4次 No.1

【所 属】	医学研究科 博士課程 1 年
【氏 名】	川西 佑典
【学会の名称】	The Annual Meeting of Orthopaedic Research Society 2020 (米国整形外科基礎学会 学術集会)
【研究発表報告】	<p>国際学会に参加させていただき、多くの貴重な経験をする事ができました。今回得られた成果を生かし、今後さらに研究をすすめ結果を出す事ができるように努力していきたい。</p> 

◆第4次 No.2

【所 属】	医学研究科 博士課程 1 年
【氏 名】	福島 裕晃
【学会の名称】	The Annual Meeting of Orthopaedic Research Society 2020 (米国整形外科基礎学会 学術集会)
【研究発表報告】	<p>アメリカで行われたORS2020(Orthopedic Reserch Society 2020)に参加し貴重な発表機会を与えていただきました。今後も研究を深めて積極的に発表していきたいと考えています。ありがとうございました。</p> 

平成 31 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第4次 No.4

【所 属】	薬学研究科 博士課程 1 年
【氏 名】	森 毅泰
【学会の名称】	22 nd Congress of the European Society for Sexual Medicine (第22回ヨーロッパ性機能学会)
【研究発表報告】	<p>私はチェコ・プラハで開催された22nd Congress of The European Society for Sexual Medicineに参加し、ポスター発表を行いました。性機能分野でも基礎研究から臨床研究までさまざまな研究が行われ、視野が広がるとともに今後の研究への刺激をもらう貴重な経験となりました。今回、国際学会発表支援をいただいたことに心より感謝申し上げます。</p>

